

麻生区役所太陽光発電所から自然エネルギーを普及させるために

おひさまだより

発行 麻生区クールアース推進委員会 2021年3月 vol.43

2020年度 自然エネルギー学校

2020年10月31日(土)開催

気候変動と海洋プラスチック問題

～海から見る地球～



目次

- ・2020年度自然エネルギー学校・・・・・・・・・・1
- ・川崎市環境基本計画改定案の説明会に参加して・・2
- ・自然エネルギーによるイルミネーション・・・・・・・・2
- ・麻生区クールアース推進委員会メンバー紹介・・3
- ・大人向け出前講座・・・・・・・・・・・・・・・・・・4
- ・麻生区クールアース推進委員会 2020年度の活動・・4
- ・編集後記・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4

プロダイバーの武本匡弘さんから、「時代の目撃者として皆に伝えたい」と海の美しい映像と共にお話をいただきました。コロナ禍で感染防止策を徹底し、密にならない様に大きな会議室を利用して約50名が参加しました。



—講演の概要—

【気候変動】

1. ダイバーになって41年：この20年間サンゴの白化が世界規模で起き、更に進みがれきになっている。グレートバリアリーフでは6割以上ががれきになっているとの研究報告がある。また、沖縄の慶良間諸島、八重山諸島ではきれいなサンゴが見られるが64.5%がだめになっているとの報告もある。
パラオの海面上昇は有名だが、神奈川県の新村ヶ崎では浜が痩せ10年来、海の家が営業が出来なくなっている。
2. 気候変動では
 - ① 気温が高くなり北極、南極域の氷が解けている。
 - ② グリーンランドの氷が解けメタンガスが出る。人類が遭遇したことのないウイルスが出てきているとの研究もある。コロナどころではないパンデミックが起こる可能性が指摘されている。
3. ダイバーになって40年間ログブックを付けているが明らかに海水温が高くなっている。
5年前から毎年2か月間の太平洋航海を行っており、航海の度に危機的状況だと体感している。5月に八丈島の沖で32℃あり、積乱雲が出て海上竜巻が発生した。
4. マーシャル諸島では海拔が無く人が住めなくなってきた。地元の人から良く質問されるのは「日

本人は気候変動をどう思っているのか？」だ！CO₂を出している国は豊かだが、あまり出していない国が深刻な状況になっている。大統領は気候難民を各国へ移住の依頼をしている。



武本匡弘氏

5. 日本の海は北海道の積丹ではコンブが無く、磯焼けになっている。江の島や葉山では海藻が無く、相模湾も磯焼けから海の砂漠化が進んできている。
6. 海は地球の酸素の2/3を海藻、プランクトン、サンゴなどが造っているが、これらが無くなっている。
7. 普通の生活をしていると、実感が得られないがガツンと来るかもしれない。
8. 脱炭素社会を進めないと2030年以前に臨界期を迎え後戻りできなくなる。
我々世代が豊かさを享受し結果として子、孫世代の命と生活を脅かしている。気候××には、「正義」「格差」「難民」「泥棒」などがある。

【海洋プラスチック】

2020年は横浜からパラオへ16日間JAMSTECの調査船に同乗し、毎日30分間収集バッグを流し海水に含まれている浮遊物の調査を行った。16日間毎日プラスチックが入っておりプラスチックスープの海を実感した。プラスチックは海面に2割で、8割は沈んでいると言われている。

1. 気候変動と海洋プラスチックは同じ問題
作ってもリサイクルしてもCO₂を一杯出すプラスチック。ハワイ大の研究ではプラスチックは太陽光での劣化が進む過程で温室効果ガスの25倍ものガスをだすとの報告が出ている。



多田区長より、開会のあいさつをいただいた。

2. 医療器具の様に必要なプラスチックは残さざるを得ないが、日用の使い捨てプラスチックは止めよう！ペットボトルのキャップには環境ホルモン物質として人体（子宮内膜症、睾丸縮小、精子減少など）や環境への影響が懸念されている「フタル酸エステル」が可塑剤として使われている。
3. 一人一人出来ることは、当たり前のことから疑ってみる。私たちが普通に生活して



いることに問題がある！レジ袋／ペットボトル／使い捨て、3R (Reuse/Reduce/Recycle) を理解しよう。元を絶つのが一番で、リサイクルではダメなんだ！

人はガマンが続かない、「やってみたらこっちがいい」を探して発見しよう。

ペットボトルを止めマイボトルに変えると、夏は冷たいのが飲めて嬉しい！など

【おわりに】

藤沢に日本初のプラスチックフリーのお店「エコストアパパラギ」を開店した。

環境のセミナーも行っているのので覗いて欲しい。「知ること」が希望 (三好一義記)

川崎市環境基本計画改定案の説明会に参加して

2020年11月18日麻生区区役所で行われた環境局主催による川崎市環境基本計画改定案の説明会に参加した。

1991年に制定された川崎市環境基本条例に基づき、1994年に「基本計画」が策定されてから、数回の改定を行い、2020年2月の「2050年二酸化炭素排出実質ゼロ宣言」を経て、上記の策定を行った。2月1日付市制だよりの記事も参考にした。

日本の平均気温は100年当り1.2℃上昇し、川崎市中部地域では1985年以降今日までに35年当り2.1℃上昇した。川崎市の猛暑日(最高気温が35℃以上の日)は、1989年から10年毎に平均して比較すると～1998年；3.3日/年、1999～2008年；4.2日/年、2009～2018年；5.7日/年と増加している。この温暖化の影響は、毎年の豪雨災害で私達の生活を脅かしている。川崎市は、産業の発展と共にあり、他の政令都市と比べて産業系のCO₂等排出量が多く20都市中最多である。

2050年CO₂排出実質ゼロを目指すかわさきカーボンゼロへのチャレンジ

- 2030年中間目標地点(マイルストーン)の設定
2050年CO₂排出実質ゼロという到達点を達成するには、これからの約10年が重要で、従来の目標250万tにさらに100万t削減を加えるマイルストーンを設定した。

- 2030年までに主要な市公共施設の使用電力を再生エネルギー100%で
- 脱炭素化に取り組む企業への新たな支援・評価手法の構築
- 事業者・団体から賛同を得ながら戦略策を策定(昨年10月16日までに304者)
- 脱炭素アクションみぞのくち(脱炭素モデル地区)の設置
 - 温暖化防止活動推進センター 啓発・広報
 - シェアリング・エコノミー 自転車・自動車・傘等を効率的に活用し、原材料やゴミ削減
 - 武蔵溝の口駅「エコステ」 水素エネルギーを災害時などで活用

川崎市では、2010年から市制100周年を迎える2024年までに、市民・事業者との協働による「市民100万本植樹運動」をやって来たが、2019年末に達成、そこで150万本を目指して取り組んでいる由、大変結構で、是非CO₂削減のため、市民一人一本の植樹運動ということで上げて欲しい。また川崎沿岸海域の海水面や水温の上昇データも是非公表して欲しい。

(児嶋脩記)



2020年12月23日～25日 自然エネルギーイルミネーションを区役所ロビーで点灯

太陽光で充電した電気でクリスマスツリー・イルミネーションを行った。太陽光パネルとエネルギーボックスにはわかりやすい説明文をつけ、麻生区役所を入れて正面となる受付わきに設置したことで、来所する多くの区民の目を引いた。





麻生区クールアース推進委員会 メンバー紹介①



地球温暖化問題の解決に向けて、少しでもできることから始めるために、平成 14 年度に麻生区区政 20 周年記念事業として、区役所屋上に太陽光発電設備が設置されました。これを契機に発足した委員会が現在の麻生区クールアース推進委員会につながっています。区役所と市民が協働して、自然エネルギー、省エネルギーの普及啓発活動を行っています。



●天野悦子（2020 年度委員長）

先日の東京新聞に「2 つの顔持つ原子力の怖さ」という中学生の声があり、私の活動原点そのものだったので、転載致します。

「原爆、それは太陽よりも明るい光で 1945 年 8 月、広島、長崎の空に広がった。すべてを燃やし、生き残った人々も被爆して今も苦しんでいる。その後、雨が降った。恵みの雨ではない。光も雨も、人間が生み出した原子力という”怪物”がもたらしたのだ。

怪物は 2 つの顔を持っている。1 つ目は、2 度と戻らない命をたくさん奪った核兵器の顔。2 つ目は、原子力発電という、二酸化炭素を排出せず、環境にやさしい人類のためになるかのような顔。事故の危険性などわすれたように。

人々は、2 つ目の顔に惑わされ、過ちを繰り返してきた。忘れるな、1 つ目の顔を、2 つ目の顔に隠された恐ろしさを。」

核兵器禁止条約が 1 月 22 日発効されましたが、被爆国日本は批准しないのです。

一方地球温暖化は深刻化し、すでに気候危機迫る今、カギを握るのは政府の委員会で検討中の「エネルギー基本計画」です。人選に問題が多く、原発推進発言が相次ぎ、温暖化対策についても消極的だそうです。それに抗議した「#原発と石炭火力ありきのエネ計画に抗議します」という SNS での緊急アクションがありました。

中学生でもわかるのに、政府は何を考えているのでしょうか！「化石燃料も原発も使わない、持続可能な再生エネ 100%の気候・エネルギー政策を求めろ」市民の声をもっと大きく届けなくては！



●飯田和子

麻生区役所の屋上から発信しています！

麻生区役所屋上から、私たち委員会は自然エネルギーの重要性を 18 年間発信してきました。屋上には太陽光発電設備があり、自然エネルギーは化石燃料に代わるエネルギーであること、そして地球温暖化防止に役立つことを市民に伝えています。2002 年の設置当時は地球温暖化の事象や太陽光発電の有効性は十分には理解されないところもありましたが、今や、温暖化は「気候危機」として日常化していますし、太陽光発電は世界中で取り組んでいる対策です。麻生区は時代を先駆けていたと言えます。

京都会議（第 3 回気候変動枠組条約締約国会議）が開催されたのは 1997 年 12 月。当時私は、「川崎・ごみを考える市民連絡会」でごみ問題に取り組んでいましたが、気候変動にも関心を強め、日本の京都で開催ということで刺激を受け市民としての行動を促されました。そこで 1998 年、自宅に太陽光発電設備を設置。さらに川崎市においては地球温暖化防止対策が進められている中、川崎市行動計画推進会議市民部会のメンバーとして、公共施設などへの「市民共同発電所」の活動を進めていました。幸いなことに当時の麻生区役所区長峰岸是雄さんを初めとするみなさんのご理解を得て、市民共同発電所ではありませんが、区政 20 周年記念事業として 2002 年度に区役所屋上に設置の運びとなりました。同年に麻生区自然エネルギー活用促進事業実行委員会（後にクールアース推進委員会に改称）が立ち上がり、自然エネルギーの普及啓発事業を区役所と協働して企画・運営してきたことはみなさまのご存知の通りです。

菅義偉首相は昨年 10 月 26 日の演説で、日本は 2050 年にむけ脱炭素社会の実現を目指すことを宣言しました。コロナ禍でダメージを受けた社会を、自然エネルギーを主力とする脱炭素社会に変容させられるでしょうか。まず 2030 年までが勝負。これをチャンスと捉え、変容させねば人類の未来は厳しい。委員会の活動はこれからも続きます。



●松沼碧

参加した次の年に創ったパネルシアターの「地球があぶない」は、地球がだんだん温暖化していること。その原因を作っているのが人間であることを、パネルのネルの白い布の上に地球や太陽、人間や工場、船、電車、などを貼って紙芝居のように場面を展開していく方法で表しています。

創った年には公立の保育園を中心に 7 園ぐらい廻って見てもらいました。2019 年に部分的に手直しをしました。子供たちに今の地球の環境が気温の上昇により危険な状態にあることを具体的な例（シロクマが生きることが難しくなった、ペンギンも子育てしにくくなった。海水が上昇し人間も暮らし難くなった。）それを解決するために水、風、太陽などエネルギーを使う事によって温暖化のほとんどの CO2 を減らす事ができる事などなどを少しでも関心を持ってもらえればよいと思います



大人向け出前講座

当委員会では 2018 年度より、大人向けの出前講座を行っています。これまで小学校の出前講座の座学用映像教材を大人向けに改編しながら使用していましたが、温暖化対策の進捗状況と関心の高まりを受け、大人向けに特化して、パワーポイントを作成・再編しました。2020 年秋には 2 団体で出前講座を実施しました。

「記録的な」あるいは「かつて経験したことのない」と表現される異常気象が頻発し、地球温暖化の危機は、誰しもが身近に迫っていることを実感しているのではないのでしょうか。2015 年パリ協定、2018 年の IPCC の 1.5℃特別報告書と、対策を早急に進めることが迫られています。世界、国、身近な行政で、どのような施策がすすめられ、また個人としてできることは何か、多くの市民の皆さんと一緒に考え、関心を持つ人を増やしていくことが、出前講座の目的です。

コロナに翻弄された 2020 年度でしたが、11 月には「神奈川ネットワーク運動・あさお」と「わくわく会」で出前講座を行いました。(林恵美記)



「わくわく会」の出前講座 (やまゆりにて)

麻生区クールアース推進委員会 2020年度の活動

2020年	9月29日	川崎市脱炭素戦略(かわさきカーボンゼロチャレンジ2050(案))説明会 & 意見交換会 呼びかけ人: 麻生区クールアース推進委員会、環境を考え行動する会、川崎フューチャー・ネットワーク
	10月31日	あさお自然エネルギー学校 「気候変動と海洋プラスチック問題～海から見る地球～」 講師: 武本 匡弘氏(プロダイバー・環境活動家)
	11月3日	かわさきFM「COOL CHOICE ☆ かわさき」出演
	11月21日	出前環境講座(神奈川ネットワーク運動・あさお「気候変動に関する学習会」での講義)
	11月27日	出前環境講座(グループ「わくわく会」での講義)
	12月22日～25日	自然エネルギーイルミネーション: 麻生区役所2階ロビー
2021年	1月22日 (3月以降に延期)	かわさきカーボンゼロチャレンジ2050 & 川崎市プラスチック資源循環への対応方針策定報告 & 意見交換会 呼びかけ人: 麻生区クールアース推進委員会、環境を考え行動する会、川崎フューチャー・ネットワーク
	1月24日 (令和3年度以降に延期)	麻生区役所太陽光発電設備設置18周年記念イベント 「気候危機と新型コロナウイルス」 講師: 高村 ゆかり氏(東京大学教授)
	3月21日	2021里山フォーラムin麻生での出展: 委員会紹介ポスター展示 (3月11日～3月21日は麻生市民館ウォールギャラリーで展示)

編集後記

今年に入ってやっと白銀の富士山が眺められるようになった。その姿を見ると妙に満たされる気持なる。その富士山の樹木「カラマツ」の林が最近40年で、約30m上方に移動し、付近の個体数も増えているという。新潟大学共生科学センターと静岡県

NPO 法人の調査で、この50年間で山頂付近6～9月の平均最高気温が約2℃上昇、樹木の生育期間が延びた事と、CO₂濃度が上がったことによるらしい。複雑な気持ちになった。

(児嶋脩記)

発行 : 麻生区クールアース推進委員会 (委員長 天野悦子)
編集担当 : 児嶋脩、林恵美
問合せ先 : 麻生区役所地域振興課 川崎市麻生区万福寺 1-5-1
Tel 044-965-5370 Fax 044-965-5201
発行日 : 2021年3月20日

